

『 剣道を学び自分を磨く 』

宮城県

加美北雄館

中学2年 石川 陽 菜

「子曰わく、学びて時に之を習う、亦説ばしからずや。朋、遠方より来る有り、亦樂しからずや。人知らずしてうらみず、亦君子ならずや。」

「どんなことでも自分が毎日頑張っていることができるようになった時は嬉しいし、同じ志を持つ友達と出会うこともできる。誰も知らなくても頑張り続けることが大切である。」という意味です。この論語は私が通う加美北雄館で、稽古のあとに全員で唱えているものです。この道場に通うようになったきっかけは小学五年生の妹が三年生の頃からずっと憧れていた剣道を始めて、母も自分を育ててくれたこの道場で、もう一度自分自身を磨きたいと十八年ぶりに再開し、二人が汗を流しているのを見て、「私も挑戦したい。」と胸が高鳴ったからです。中学校に入学して部活動を決める時に、とても迷ったのですが、あの胸の高鳴りを思い出し、剣道部に入部しました。道場に入ると、ピリッとした空気を感じ、礼に始まり礼に終わる先輩方の姿を見ていて時間が過ぎるのがあつという間だったのを覚えています。部活動だけではなく、人一倍稽古を重ねていきたいと思い、私も妹や母が通う加美北雄館に入門しました。礼儀作法や相手を敬う気持ちを忘れずに、無我夢中で稽古をしましたが思い通りにできずに落ち込むこともありました。そんな時に目に入るのが、母の姿でした。どんなに厳しい稽古でも、強い相手に倒されようとも立ち向かっていく姿です。普段は主婦として九人家族の家事をこなし、今は亡くなってしまいましたが曾祖父と曾祖母の介護もしていました。朝から夜までいつも走り回って、疲れているはずなのに、必ず稽古に向かうのです。曾祖父母が、あと少しで命が尽きてしまうかもしれない時も、涙をぬぐいながら、道場へ行くのを見て、私は

「どうしてそこまで頑張ろうとするの？」

と母に聞きました。すると母は、

「辛い時だからこそ剣道をするんだよ。剣道は邪念を取り払ってくれる。真っ白な心にしてくれる。どんなことにも負けない強い人間になるために私は続けているの。」

と強いまなざしで話してくれました。その時、私は一番大切なことを忘れかけていたことに気付きました。どんなことにも負けない強い心は自分自身で作り上げていくものだということに。そのためには、初めに紹介した論語のように誰も知らなくても、気付かれなくても努力し続けることが一番大切なのです。誰のためでもなく、自分のためなのです。剣道を通して技術を身に付けるほかに、人として真つすぐな道を歩んでいく大切さ、またその難しさを知りました。日々稽古に励み、試合で結果を残すことも大切ですが、今の私には足りない、強い心を人として成長していくということも身に付けなければなりません。

「剣道」それは、私達親子にとって、真っすぐな道を歩み、強い心を持てるようになるかけがえのないものです。何の不自由もなく生活でき、一生懸命剣道に打ち込むことができるのは、家族と道場の先生方のおかげです。いつでも私を支えてくれる家族と先生方への感謝の気持ちを忘れずに、これからも母とともに、稽古に励みたいと思います。そして、いつの日か、私が母親になったら、剣道のすばらしさを子供にも伝えていきたいと思っています。